

WHODrug Cross Reference Tool Japan

- 日本の医療用医薬品名データファイル (IDF)とWHODrug辞書間の直接コード変換による容易な情報共有
- 高品質な医薬品データの標準化による患者の安全性の向上
- 医薬品の日本語名が世界規模で閲覧可能
- 国内外を問わず、あらゆるレベルで迅速かつ信頼性の高い医薬品安全性報告の作成に寄与

Uppsala Monitoring Centre (UMC)は、国際的な医薬品安全性における科学的研究とサービスを提供する独立非営利財団法人です。UMCのビジョンはすべての医療従事者や患者が治療の際、賢明な医薬品選択のできる世界を作ることです。そのために有効な医薬品安全性監視を国際的に実践し、患者の安全性を率先してサポートすることを使命としています。



Uppsala
Monitoring
Centre



WHO Collaborating Centre for
International Drug Monitoring

Box 1051, SE-751 49, Sweden

Tel: +46-18-65 60 60 Fax: +46-18-65 60 80

E-mail: info@who-umc.org www.who-umc.org

INSPIRE. ENGAGE. TRANSFORM.

WHODrug CRT Japan

Improving patient safety worldwide



Uppsala
Monitoring
Centre

- Building a global safety culture

世界基準への安全な懸け橋

Uppsala Monitoring Centre (UMC)は医療用医薬品名データファイル (IDF) の維持管理を行う医情研 (医薬情報研究所) と協力し、IDFとWHODrug間の双方向性コード変換ツール **WHODrug CRT Japan (WHODrug Cross Reference Tool Japan)** を開発しました。IDFは、臨床データおよび医薬品安全性データをコード化し、日本の独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA) に報告する際に使用されます。一方、世界のその他の地域においては、WHODrugが事実上の標準となっています。**WHODrug CRT Japan** は、日本国内で積極的に活動する製薬会社およびCROに併用治療薬のコード化およびPMDAへ提出のためのシンプルなソリューションを提供します。IDFとWHODrugが相互にリンクづけられたことにより、**WHODrug CRT Japan** を使って、日本からのデータも分析することができるようになり、世界的に見た更なる患者の安全性向上に大きく貢献します。また**WHODrug CRT Japan** を使うことで、日本語でコード化された治験でも、WHODrugでのデータ格納を求めるPMDAの申請データの電子化にも対応できるようになります。

迅速性と確実性の向上

製薬会社およびCROは、臨床・安全性データを日本では主にIDFを使って、海外ではWHODrugを使ってコード化しますが、**WHODrug CRT Japan** を用いることにより、IDFとWHODrug間のマッチングが容易となり、時間のかかるダブルコーディング作業が不要となり、業務の効率性と確実性が高まります。

最新データの整合性

WHODrugとIDFの最新情報が定期的に **WHODrug CRT Japan** へと反映されます。さらにマッピングコードは常に一貫した整合性を維持しているため品質が保証され、社内でコード化することで起こりうる不確実性を回避することができます。



強力な分析ツール

WHODrug CRT Japan aでは、WHODrugに搭載されている強力な分析ツールをIDFでコード化されたデータに使用することが可能です。これにより日本語のデータは Anatomical Therapeutic Chemical (ATC) classification system や Standardised Drug Groupings (SDGs) などの国際的なデータと同様の方法かつ用語を使用して分析することができます。SDGsを利用して、海外と同じプロトコルで日本のプロトコル違反や薬物相互作用を特定することができます。日本人とその他の集団で異なりうる代謝経路も含め、治験薬の代謝に影響を及ぼす可能性のある併用薬を迅速に特定することができます。

国際的なベネフィット

多国籍企業や国外との情報伝達が、より円滑で信頼性の高いものになります。**WHODrug CRT Japan** によるIDFとWHODrugデータコードの自動マッチングは、コード選択に要する時間を短縮し、送信された情報と情報解釈の質を改善すると同時に強力な分析とスムーズな情報伝達を可能にします。

WHODrug CRT Japanの利用方法

WHODrug CRT Japan の利用に際しては、WHODrug Global および IDF の両方のサブスクライバーであることが条件となっています*。IDFにアクセスするには日本でのIDFのメンテナンス機構である医薬情報研究所、MT協議会の会員登録が必要です。ライフサイエンス企業や、**WHODrug CRT Japan**、IDF および WHODrug Globalをサポートしているソフトウェアシステムのディベロッパー企業などが入会できます。

* IDFライセンスを有する日本の中小企業は、WHODrug CRT Japan を単独製品として利用できる場合があります。

詳細については

WEBサイトをご覧ください

www.who-umc.org

メールでお問い合わせください。

WHODrug@who-umc.org